

発行日：2020年01月23日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称：

製品名称：PJプライマー

製品番号 (SDS NO)：SDS01197-6

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途：一般モルタル・コンクリート用プライマー

供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称：AGCポリマー建材株式会社

住所：東京都中央区日本橋人形町1-3-8

電話番号：03-6667-8421

FAX：03-6667-8431

作成担当部門：品質管理グループ

緊急連絡先：AGCポリマー建材株式会社

電話番号：03-6667-8421

問い合わせ先：研究開発部

電話番号：0480-22-6300

FAX：0480-25-4012

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類、GHSラベル要素

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体：区分 2

健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：区分 2B

特定標的臓器毒性(単回ばく露)：区分 3(気道刺激性)

特定標的臓器毒性(単回ばく露)：区分 3(麻酔作用)

誤えん有害性：区分 1

環境有害性

水生環境有害性 短期(急性)：区分 3

水生環境有害性 長期(慢性)：区分 3

(注) 記載なきGHS分類区分：該当しない/分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語：危険

危険有害性情報

引火性の高い液体及び蒸気

眼刺激

呼吸器への刺激のおそれ

眠気又はめまいのおそれ

飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

水生生物に有害

長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

安全対策

環境への放出を避けること。

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

容器を密閉しておくこと。

容器を接地しアースをとること。

防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。
 火花を発生させない工具を使用すること。
 静電気放電に対する措置を講ずること。
 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

応急措置

火災の場合:指定された消火剤を使用すること。
 気分が悪いときは医師に連絡すること。
 吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 皮膚(又は髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。
 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 眼の刺激が続く場合:医師の診察/手当てを受けること。
 無理に吐かせないこと。
 飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。

保管

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。
 施錠して保管すること。

廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

慣用名又は別名 : 環境対応型溶剤系1液ウレタンプライマー

成分名	含有量 (%)	CAS No.	化審法番号
ウレタンプレポリマー	40 - 50	-	-
プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート	30 - 40	108-65-6	(2)-3144
メチルシクロヘキサン	10 - 20	108-87-2	(3)-2230

注記:これらの値は、製品規格値ではありません。

4. 応急措置

応急措置の記述

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 呼吸が停止しているときは人工呼吸を行う。
 呼吸困難のときは酸素吸入を行う。

皮膚(又は髪)に付着した場合

汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。
 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 眼の刺激が続く場合:医師の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

無理に吐かせないこと。
 直ちに医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

泡、炭酸ガス、乾燥砂、粉末ドライケミカル、大量の噴霧水を使用すること。

使ってはならない消火剤

水(棒状水、高圧水)

冷却の目的で霧状水は用いてもよいが、消火に棒状水を用いてはならない。

特有の危険有害性

加熱すると容器が爆発するおそれがある。

火災によって刺激性、有毒及び/又は腐食性のガスを発生するおそれがある。

消火を行う者への勧告

特有の消火方法

霧状水により容器を冷却する。

安全な距離から散水冷却して周囲の設備を保護する。

粉末消火器あるいは炭酸ガス消火器で初期消火にあたる。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

消火作業従事者は全面型陽圧の自給式呼吸保護具を着用する。

保護衣を着用するほか、状況によっては、非浸透性手袋、保護メガネ、有機ガス用防毒マスク、給気式呼吸用保護具などの保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

漏出した場所の周辺にロープを張り、人の立ち入りを禁止する。

環境に対する注意事項

河川への排出等により、環境への影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

清浄な帯電防止工具を用いて吸収したものを集める。

多量の場合には流路を盛土などで囲って流出を防止する。

少量の場合は、吸着剤(おがくず、土、砂、ウエス等)に吸収させて取り除いた後、残りをウエス等でよく拭き取る。

回収後の床は、中和剤を散布して中和し、十分に水洗する。

中和剤の例: 水/濃アンモニア水/液体洗剤(質量比)=90~95/3~8/0.2~0.5

漏出物は、密封できる容器に回収し、安全な場所に移す。

二次災害の防止策

全ての発火源を取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)

排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

(取扱者のばく露防止)

皮膚、粘膜、または着衣に触れたり、目に入らぬよう保護具を着用する。

取扱いは換気の良い場所で行い、容器はその都度密栓すること。

(火災・爆発の防止)

火気厳禁。周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。

(局所排気、全体換気)

排気/換気設備を設ける。

(注意事項)

皮膚に触れないようにする。

眼に入らないようにする。

安全取扱注意事項

指定された個人用保護具を使用すること。

容器に圧力をかけない。

接触回避

酸化剤、酸、アルコール、アミン、塩基、水との接触を避けること。

衛生対策

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

保管**安全な保管条件**

容器を密閉しておくこと。

施錠して保管すること。

日光から遮断し、換気の良い場所で保管すること。

安全な容器包装材料

消防法及び国連輸送法規などで規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置**管理指標**

管理濃度データなし

許容濃度

(メチルシクロヘキサン)

日本産衛学会(1986) 400ppm; 1600mg/m³

(メチルシクロヘキサン)

ACGIH(1962) TWA: 400ppm (上気道刺激; 中枢神経系損傷; 肝臓及び腎臓障害)

ばく露防止**設備対策**

洗眼設備を設ける。

手洗い/洗顔設備を設ける。

排気装置を付けて、蒸気が滞留しないようにする。

保護具**呼吸用保護具**

有機ガス用防毒マスクを着用する。

密閉された場所では送気マスクを着用する。

手の保護具

保護手袋を着用する。

眼の保護具

保護眼鏡/安全ゴーグルを着用する。

皮膚及び身体の保護具

顔面保護具を着用する。

保護衣を着用する。

繰り返し又は長時間取扱いの場合、耐浸透性の保護衣とブーツを着用する。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理状態：液体

色：淡黄色透明

臭い：エステル臭

pHデータなし

沸点又は初留点データなし

沸点範囲データなし

融点/凝固点データなし
分解温度データなし
可燃性(ガス、液体及び固体)データなし
引火点:(開放式) -6°C
自然発火点データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界データなし
蒸気圧データなし
蒸気密度: 知見なし
相対ガス密度(空気=1)データなし
密度及び/又は相対密度データなし
動粘性率データなし
溶解度:
水に対する溶解度: 水と反応する。
溶媒に対する溶解度: トルエン、アセトン、酢酸エチル等の有機溶剤に可溶。
n-オクタノール/水分配係数データなし
粒子特性データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

反応性データなし

化学的安定性

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

危険有害反応可能性

酸化性物質と接触すると、発火、爆発の危険性がある。

水、アルコール、アミン等の活性水素化合物と反応し発熱する。

水と反応して二酸化炭素を発生する。この反応が密閉容器内で起こると、容器が膨れ、場合によっては破裂することがある。

避けるべき条件

高温、火気、スパーク

水、湿気を避ける。

混触危険物質

酸化剤、酸、アルコール、アミン、塩基、水

危険有害な分解生成物

燃焼により一酸化炭素、窒素酸化物などの有害ガスが発生する恐れがある。

11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性

急性毒性(経口)

[日本公表根拠データ]

(メチルシクロヘキサン)

mouse LD50=1200mg/kg (RTECS, 2005)

局所効果

皮膚腐食性/刺激性データなし

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

[日本公表根拠データ]

(プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート)

ラビット 軽度から中等度の刺激性 (SIDS, 2003)

(メチルシクロヘキサン)

ラビット 軽度の刺激性 (RTECS, 2005)

呼吸器感受性又は皮膚感受性データなし

生殖細胞変異原性データなし

発がん性データなし

催奇形性データなし

生殖毒性データなし

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

[区分3(気道刺激性)]

[日本公表根拠データ]

(プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート)

気道刺激性 (SIDS, 2008)

[区分3(麻酔作用)]

[日本公表根拠データ]

(プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート)

麻酔作用 (SIDS, 2008)

(メチルシクロヘキサン)

麻酔作用 (HSDB, 2005)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)データなし

誤えん有害性

[区分1]

[日本公表根拠データ]

(メチルシクロヘキサン)

cat. 1; hydrocarbon, kinematic viscosity = ca. 0.95 mm²/s (20°C)

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性

水生生物に有害

長期継続的影響によって水生生物に有害

水生環境有害性 短期(急性) 成分データ

[日本公表根拠データ]

(プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート)

藻類 (Pseudokirchn eriella subcapitata) EC50>1000mg/L/72hr; 甲殻類 (オオミジンコ) ErC50=370mg/L/48hr; 魚類 (メダカ) LC50>100mg/L/96hr (環境省生態影響試験, 1997)

(メチルシクロヘキサン)

甲殻類 (オオミジンコ) EC50=0.33mg/L/48hr (環境省生態影響試験, 2006)

[会社固有データ]

製品情報: 区分3

水生環境有害性 長期(慢性) 成分データ

[日本公表根拠データ]

(メチルシクロヘキサン)

藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata) NOEC=0.067mg/L/72hr (環境省生態影響試験, 2006)

[会社固有データ]

製品情報: 区分3

水溶解度

(プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート)

19.8 g/100 ml (ICSC, 1997)

(メチルシクロヘキサン)

溶けない (ICSC, 1997)

残留性・分解性

(メチルシクロヘキサン)

急速分解性なし (BODによる分解度:0% (既存点検, 1986))

生体蓄積性

(メチルシクロヘキサン)

BCF=321 (Check & Review, Japan)

土壌中の移動性
土壌中の移動性データなし
他の有害影響
オゾン層への有害性データなし

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報
廃棄物の処理方法

環境への放出を避けること。
内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。
廃塗料、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約(マニフェスト)をして処理する。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

国連番号 : 1866
正式輸送名 : 樹脂液、引火性
分類または区分 : 3
容器等級 : II
指針番号: 128

特別の安全対策

国内規制

陸上輸送: 消防法、労働安全衛生法、毒物及び劇物取締法に該当する場合は、それぞれの該当法律に定められる運搬方法に従うこと。

海上輸送: 船舶安全法に定めるところに従うこと。

航空輸送: 航空法の定めるところに従うこと。

容器に漏れの無いことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行うこと。

直射日光、雨に暴露されないように運搬する。

「取扱い及び保管上の注意」の項に記載による他、引火性の強い有害な液体に関する一般的な注意による。その他、消防法、船舶安全法等の法令に定める所に従う。

国内規制がある場合の規制情報

船舶安全法

引火性液体類 分類3

航空法

引火性液体 分類3

15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令
毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

特化則に該当しない製品

有機溶剤等に該当しない製品

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

名称表示危険/有害物

メチルシクロヘキサン(別表第9の576)

名称通知危険/有害物

メチルシクロヘキサン(別表第9の576)

別表第1 危険物 (第1条、第6条、第9条の3関係)

危険物・引火性の物 (-30°C ≤ 引火点 < 0°C)

化学物質排出把握管理促進(PRTR)法に該当しない。

消防法

第4類 引火性液体第1石油類非水溶性液体 危険等級 II(指定数量 200L)

化審法に該当しない。

16. その他の情報

参考文献

Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 20th edit., 2017 UN

2016 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)

2019 TLVs and BEIs. (ACGIH)

<http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>

JIS Z 7253 : 2019

原材料/製品メーカーSDS

国際化学物質安全性カード(ICSC)日本語版

社団法人日本塗料工業会「GHS対応SDS・ラベル作成ガイドブック[混合物用(塗料用)]改訂第3版」

独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE) <http://www.nite.go.jp/>

責任の限定について

すべての化学品には未知の有害性がありうる為、取扱いには細心の注意が必要です。

この情報はこの特定の材料に関するものであり、この材料が他の材料と組み合わせられたり、処理されたときは無効です。この情報を自分自身の独特な取扱いに適合させ完全で満足できるものとする責任はユーザーにあります。

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

安全データシートの目的は当該製品を安全に取り扱って頂くための情報を提供するものです。ここに記載されたデータは製品の性能について何ら保証するものではありません。